

**DASYLab Techniques (DASYLab V11/ V12 をお使いいただくために)**

日々の測定データファイルを自動保存するワークシート作成ヘルプマニュアル

●目次●

1. 事前準備-----	2
2. 自動保存ワークシート作成手順-----	3

今回のワークシートは[Action]モジュールを使用するため  
DASYLab V11 / V12 の Full/Pro のどちらかのバージョンで動作可能です。

## 1. 事前準備

以下のソフトウェアおよびドライバーをインストールしてください。

MCC-DAQ CD より Instacal および Universal Library( 6.2 以降)

【所有のバージョンが、DASYLabV11 の場合】

- ・ DASYLab V11 service Pack2
- ・ MCC-DRV V11.1

【所有のバージョンが、DASYLabV12 の場合】

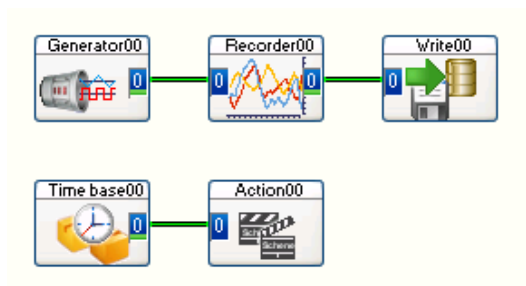
- ・ MCC-DRV V11.1

## 注意事項

本来ならMCC 製品の機器をPCに接続しますが、今回は接続せずに[Generator]を使用しております。実際に使用する場合はこの[Generator]をお使いの MCC 製品の[入力]モジュールへ変更してください。

## 完成ワークシート図

このワークシートは、既存のワークシートの[Write Data]モジュールの設定変更し2つのコントロールモジュールを追加する必要があります。



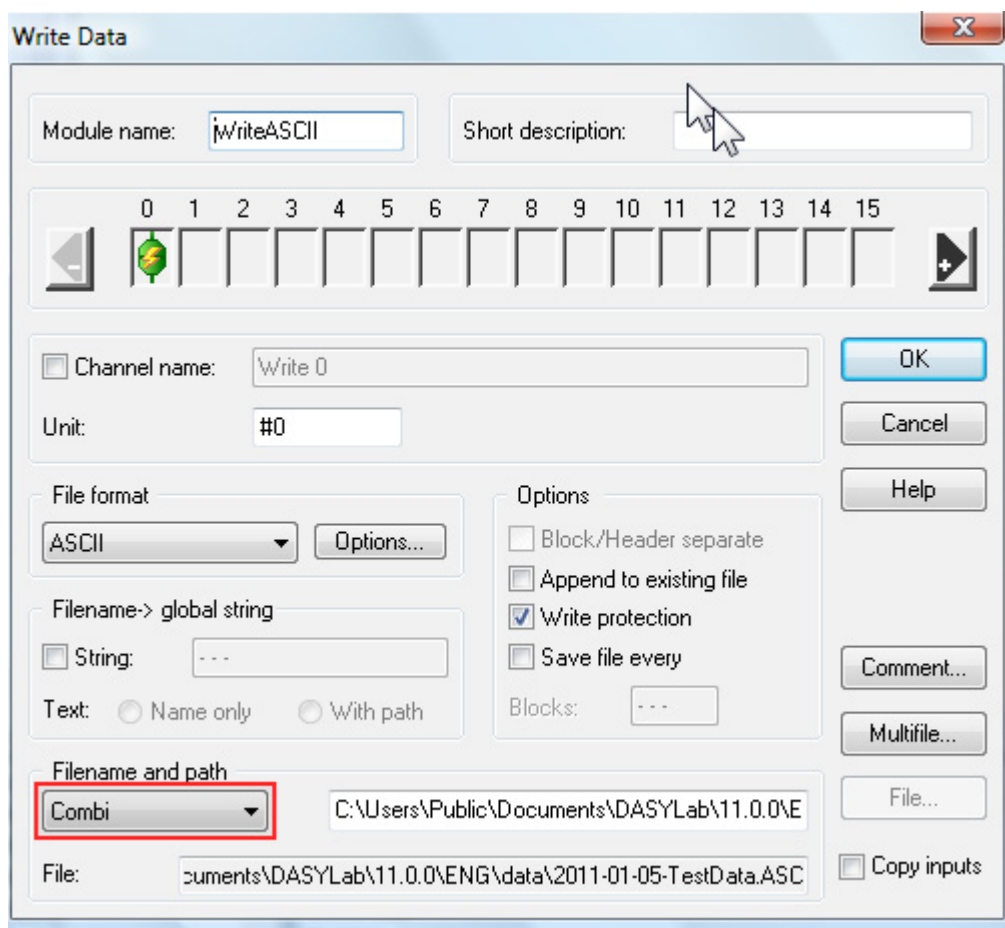
## 2. 自動保存ワークシート作成手順

日付を含んだファイル名にするため、[Write Data]モジュールの設定を行います。

日付は、DASYLab ソフトウェアのグローバルSTRING(一般付帯条件)機能を使って組み込みます。そして、ファイル名変更をコントロールするために[Time base]と[Action]モジュールを追加します。

尚、DASYLab ソフトウェア自体はこちらから指示しない限り、ファイル名を変更しません。したがって[Action]モジュールを使用しコントロールする必要があります。

### 1) [Write Data]モジュールのファイル名設定



下部の Filename and path を Combi に変更します。

表示された入力ボックスには、グローバルSTRINGを使用するためファイル名を設定します。

## 2) Global String の挿入方法

DASYLab はプログラムに提供できる情報によって、多くの付帯条件が提供可能です。日付や時間入力は DASYLab のその条件例です。

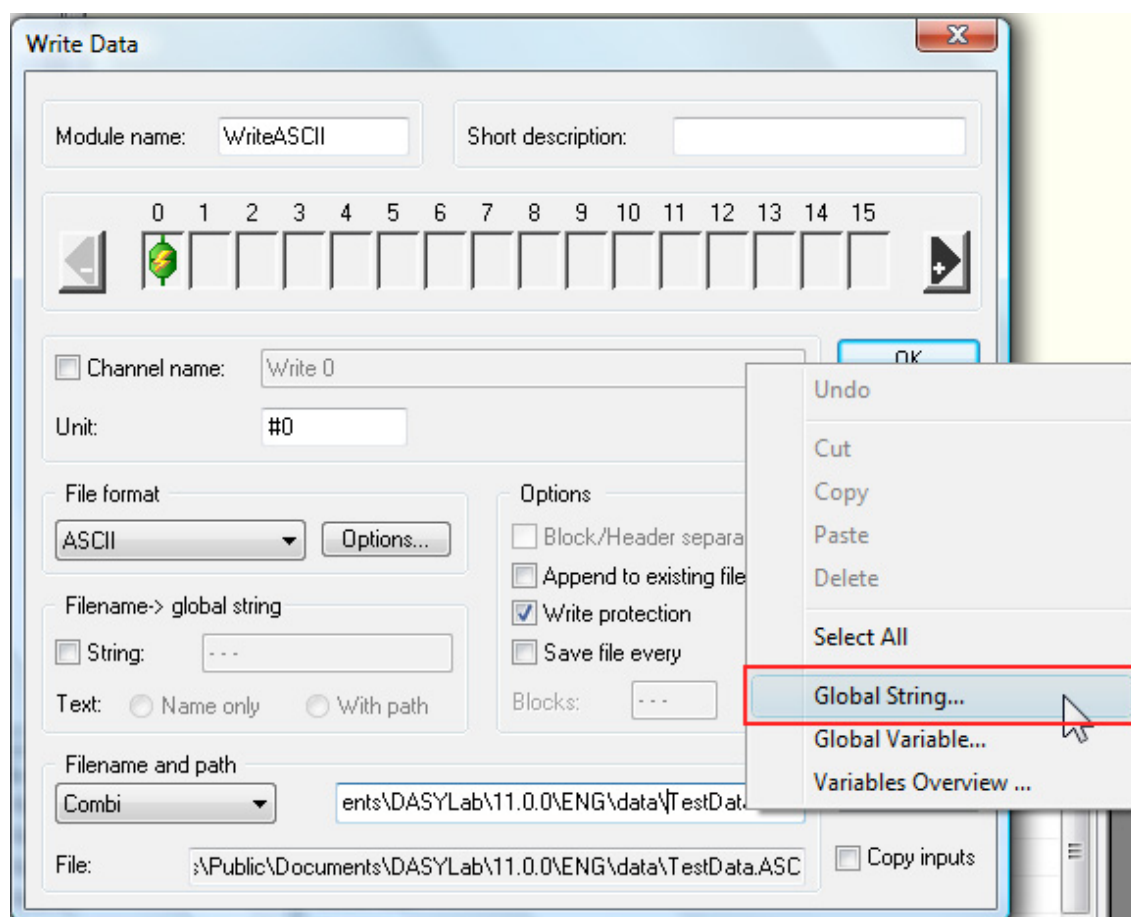
日付のための標準フォーマット、例えば 1/5/2011 はファイル名において使用が許されない、「/」文字を含みます。同様に 時間表示の 10:23 は「:」を含んでいます。

この問題を避けるために DASYLab はグローバルSTRING(一般付帯条件)を持っています。

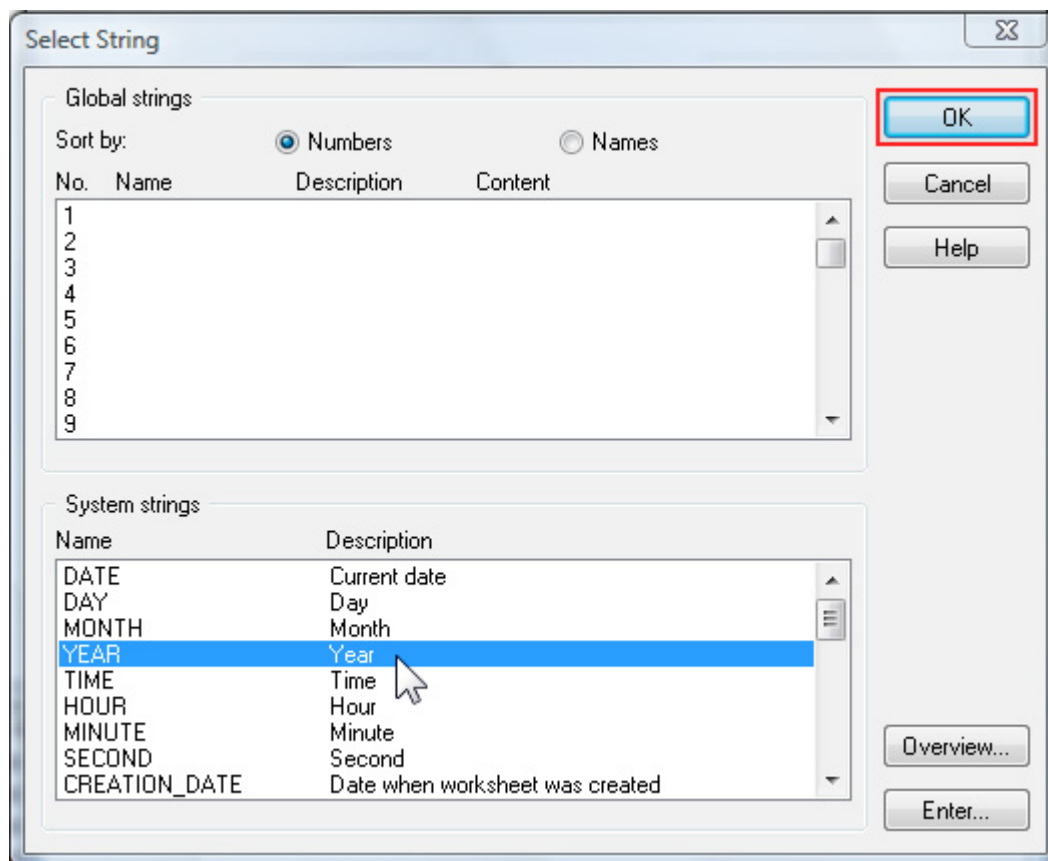
DASYLab はこの付帯条件を使うことを容易にしておき、リストから付帯条件を選ぶことを可能にしています。

リストを開くために、ファイル名入力ボックスにマウスを動かします。

その上で右クリックし、メニューバーを開き、Global String を選びます。



Global String dialog の中で、表示させたい年、月、日、時間等を選び、[OK]をクリックすると、ファイル名に挿入されます。



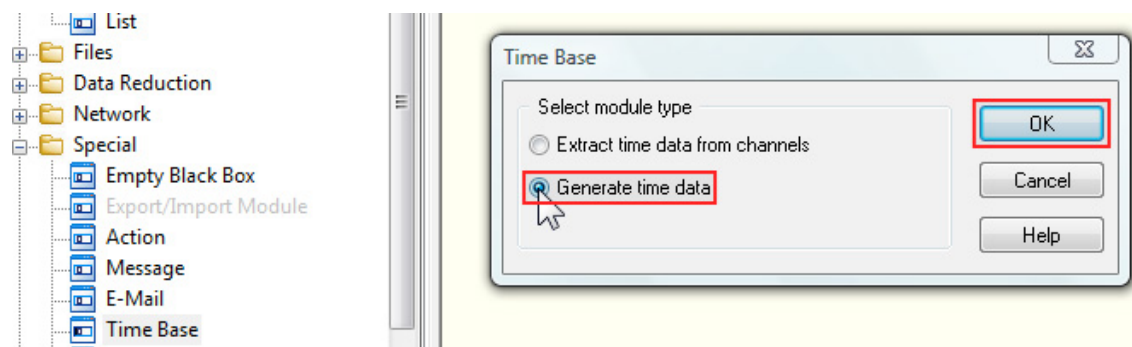
さらに条件を追加するためにはこの方法を繰り返してください。  
正しく分類されるように- (ハイフン)、\_ (アンダーバー)等を使用します。  
[Write Data]モジュールの設定終了後、ワークシートに配置します。

### 3) [Time Base]モジュールの追加

Special グループ内 [Time Base]モジュールを追加します。

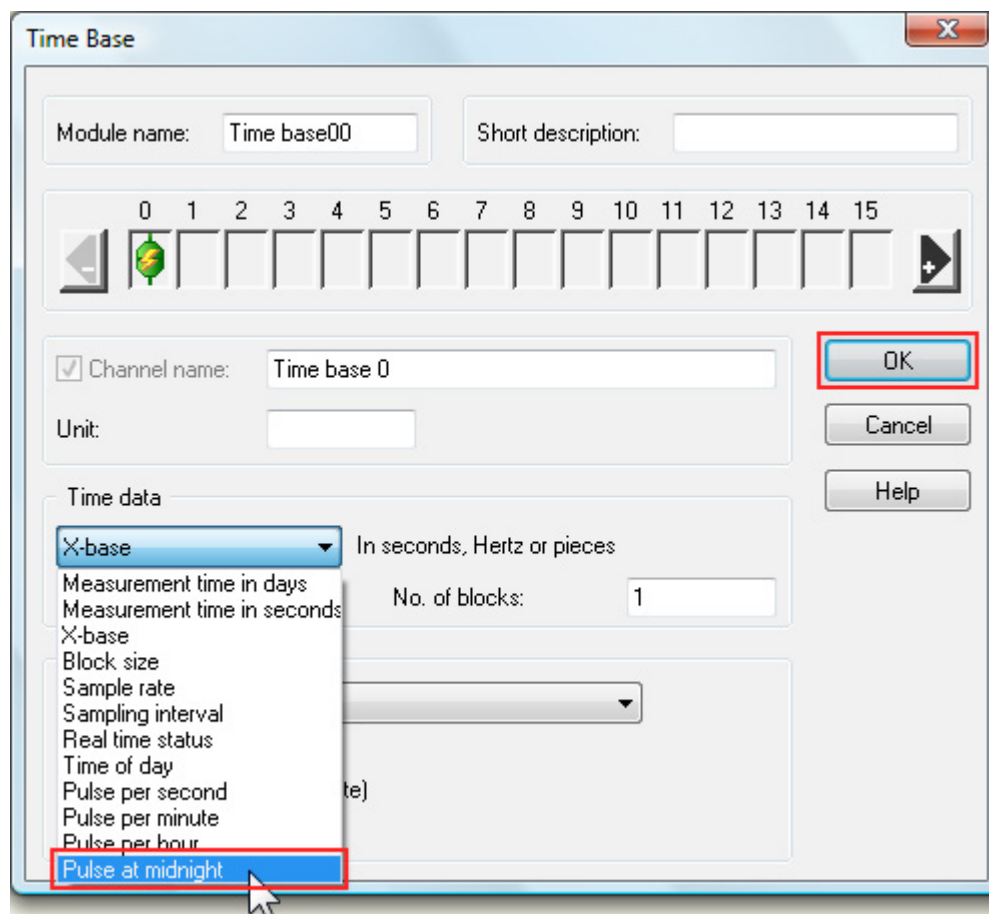
ワークシートへ配置する際、下図の Time Base 表示がでますので

Generate time data を選択し、[OK]をクリックします。

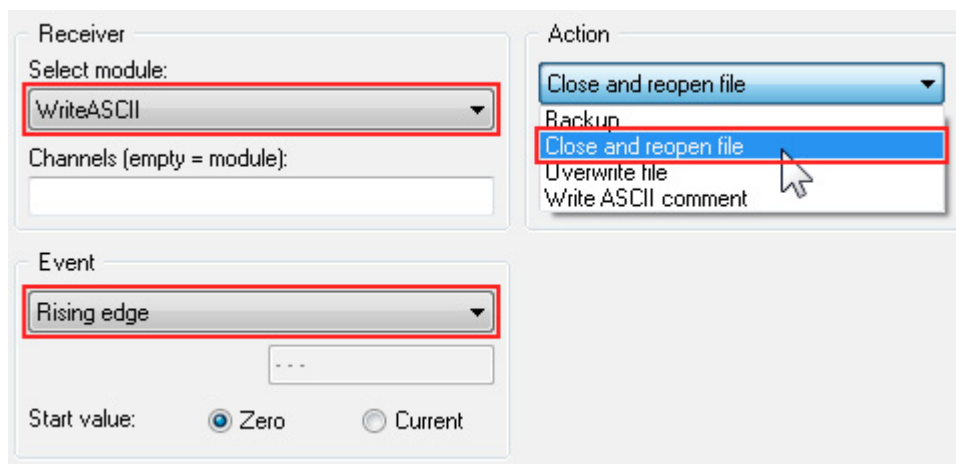


モジュールプロパティを開き、Output の Time data 内から条件を選択します。

今回は、Pulse at midnight を選択し設定を保持するため[OK]をクリックします。



- 4) 最後に Special グループ内の[Action]モジュールを選択します。  
[Action]モジュールのプロパティを開き設定します。



プロパティ内 Receiver を[Write]モジュールにし、Event を Rising Edge にしておきます。  
Action は Close and reopen file を選択し、[OK]をクリックします。

それぞれを、最初に記載しておりますように接続します。

以上で ファイルの新規保存について自動更新をするようになります。